



教会短信

2009年2月8日

No. 25

牧師 間瀬 善彦

NHKの大河ドラマ「天地人」の放映が始まりました。歴史好きなわたしは、今回はどんな人物が取り上げられるのかと毎年楽しみです。今年は、直江兼統かねつぐです。上杉謙信から「義」の精神と、民を愛し民と生きる心を受け継いだ、とドラマ解説書にありました。特に、兜の前立まへだてに「愛」の一字をあしらったことは有名です。

ところで、わたしが疑問に思ったのは、この前立の愛の文字はいったいどこからきているのか、ということでした。直江兼統が生きた戦国時代にこの愛という文字はよく使われていたのでしょうか。文字を兜の前立に用いていた武将はあまり多くはなかったのではないのでしょうか。そう思っていた時、新聞の記事からこのような説があることを知りました。直江兼統は愛染明王あいぜんみょうおうを信仰していたので、そこから愛の文字を取ったというのです。愛染明王とは、愛情を表し、仏法護持の神です。領民を慈しみ、良き政策を行ったと言われる直江兼統にふさわしい言葉であったでしょう。

聖書では愛についてどの様に書いてあるか見てみましょう。ギリシア語聖書のアガペーという言葉は神の愛を表す言葉です。日本語聖書に翻訳される時適当な言葉が見当たらず、最初は「ご大切」と訳されました。その後、アガペーの翻訳に日本語の愛という文字を当てるようになり、現在に至りました。ですから、もともと日本語にあった愛の意味と違うわけです。日本人同士の会話では、愛というと男女間の恋愛関係を表すことが多いです。しかし、聖書で言う愛は、神の人類に対する絶対的な愛を示します。それは具体的に、人類の救いのために神がご自分の御子イエスを犠牲にして十字架につけられたことに表わされています。

「わたしたちが神を愛したのではなく、神がわたしたちを愛して、わたしたちの罪を償つぐなういけにえとして、御子をお遣わしになりました。ここに愛があります」

(ヨハネ I 4:10)。

わたしたちの罪を償うために、神は罪のないお方、独り子イエスを十字架につけて犠牲にされたのです。これが本当の愛なのです。

「年越し派遣村」で学んだこと

教会の2009年元旦礼拝を終えて、その後大みそかにNHKニュースで知った、「年越し派遣村」のことを皆で話し合いました。私たちも何か役に立たせていただきたいと思いが一致し、募金をすることにしました。そして数人で「派遣村」に届けに行きました。

お世話をしている係りの方にわずかばかりのお金を差し出しますと、「仲間のために使わせていただきます。ほんとうにありがとうございました」というご挨拶が返ってきました。私はその「仲間のために」という言葉にはっとしました。その係の方は、いつも組織内で「仲間」と呼び合っているのかもしれませんが。でも「仲間」というとき、それは「支援を受ける側」と「支援をする側」とが同一線上に並んだときのみに発せられる言葉だと思います。

この「派遣村」の方々について次のような意見を耳にすることがあります。「あの人たちは仕事を選び好みしているので、なかなか仕事が見つからない」「初めから安定した雇用形態を選ばなかったのだから自己責任である」など……。

私はこのような意見には賛成できません。人間は自分にその原因がなくても、予測できない事情が発生し正社員になれなかったり、家族とともに暮らせなかったりする状況に追い込まれてしまうことがあったり、その他いろいろな事情があると思います。

人間はどのような状況におかれていても、神様に創られた者として、みんな平等な存在なのです。聖書の中に次のような言葉があります。「わたし（神）の目にあなたは価高く、貴く、わたしはあなたを愛して」いる（イザヤ書43章4節）。このように神様はすべての人を公平に愛されているのです。神様にとって一人一人は大切な存在なのです。

私たちは困難な状況にある方が、可哀相だから支援するものではありません。お互いに仲間ですから、たとえば自分がたくさん食べ物を持っていて隣の人が飢えていたとしたら分けてあげるのがごく当然のことだと思います。

私は人に何かしてあげるとき、無意識のうちに自分が相手の上に立っているような気分になっていることがありました。でもそれは大きな間違いであることに気が付きました。これからは困難な状況におかれている方々に出会い、もし何かしてあげるときには、相手の目線に合うような姿勢で、「よろしかったら召上ってください」と声をかけながらして上げなければと思いました。神様にとって人間はみな一人一人大切な存在だからです。

天の下では、何事にも定まった時期があり、
すべての営みには時がある。
神のなさることは、すべて時にかなって美しい。

(伝道者の書 3章 1、11 節)

すべての出来事に神が定めた時があると聖書には書かれています。生まれるのにも、死ぬにも、泣くにも、ほほえむにも……。

人は目前に起こったことに心を奪われがちですが、一つの出来事が起きたとき、神はなぜそうしたのか、なぜそれを許されたのかに思いを巡らせてみると、最初はわからなかった深い意味に気づくかもしれません。

この言葉に関連して次のように記されています。「植えるのに時があり、植えた物を引き抜くのに時がある」「くずすのに時があり、建てるのに時がある」「愛するのに時があり、憎むのに時がある」。

「聖書の品格」(いのちのことば社)より引用

イースター (4月12日)

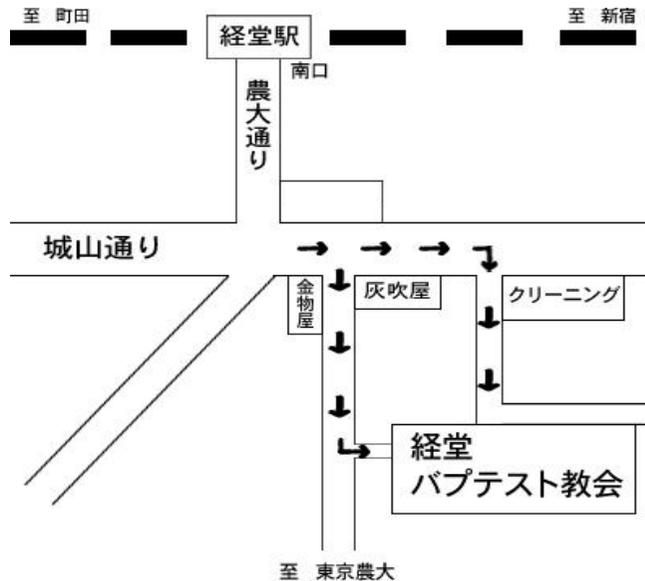


イースターは、復活祭です。イエス・キリストが十字架にかけられて殺され、埋葬された後、3日目の日曜日の早朝に復活されたことをお祝いする日です。キリスト教会では、キリストが復活された日曜日を「主の日」と呼んで、教会に集まり礼拝をします。

イースターは、「移動祝日」で、年毎に日が変わります。基本的には、春分の後の最初の満月の次に来る日曜日です。満月が日曜日になったら、次の日曜日に復活祭を行います。今年は4月12日の日曜日に、イースター礼拝を行います。どなたでも歓迎いたします。ご一緒にイースター礼拝を守りましょう。

日曜日は教会へ集会案内

主日礼拝	日曜日	午前 10時30分～11時30分
教会学校	日曜日	午前 11時45分～12時30分
	青年科・成人科	
聖書を学ぶ会	火曜日	午後 1時30分～2時30分
聖書研究・祈禱会	水曜日	午後 7時30分～8時30分



経堂バプテスト教会

牧師 間渕 善彦

〒156-0053 世田谷区桜1-64-30

TEL 03-3427-2352

当教会は、エホバの証人、モルモン教、統一協会とは一切関係ありません。